

令和7年度 自己評価結果公表シート

社会福祉法人省我会 千代田せいが保育園

1. 本園の保育目標（子ども像）

自分らしく意欲的で思いやりのある子ども

- ① 分が好きで自信のある子ども（自己肯定感の高い子ども）
- ② 好きな遊びを見つけ探究する子ども（環境への関わり方と意味に気づく子ども）
- ③ 人と関わる力がある子ども（他者と支え合って生活できる子ども）
- ④ 他人の喜びを喜べる子ども（思いやりのある子ども）

2. 本年度、重点的に取り組む保育の目標・計画

1 保育の基本的理念と実践に係る観点

- ・保育の質を高めるために、子どもの育ちと学びの連続性を高めていく。

2 家庭及び地域社会との連携や子育て支援に係る観点

- ・公開保育や架け橋プログラムなどの推進により地域との連携を深めていく。

3 保育の実施運営・体制全般に係る観点

- ・働き方を改善し、より保育が楽しいと思える職場にしていける。

* 上記は令和6年度の総括を踏まえたもの

3. 評価項目の達成および取組状況

評価項目	取 組 状 況
I 保育の基本的理念と実践に係る観点 ・保育の質を高めるために、子どもの育ちと学びの連続性を高めていく	・見守る保育・藤森メソッドに基づき、子ども同士の関わりを大切にしたい保育、個々の子どもの姿に寄り添った保育を進めた。 ・日々の保育ドキュメンテーションを使った定期的な振り返りによって、子どもの育ちと自らの保育について先生に気づきが生まれ、長期的な流れを把握して可視化した自己評価ができた。 ・年間を通じて味の探究を積み重ね、野菜を味わって食べるという姿を育てることができた。（東京すくわくプログラム） ・年長児を対象に STEM 保育を実施し（東京すくわくプログラム）遊びから学び、学びから探究へという深まりをみせた。 ・公開保育によって地域の園の先生たちとの交流をふかめることができた。
II 家庭及び地域社会との連携や子育て支援に係る観点 ・公開保育や架け橋プログラムなどの推進により地域との連携を深めていく	・保護者参加の行事（親子遠足・納涼会・親子運動遊びの会・お楽しみ会・成長展）によって子どもの育ちを共に喜び、親子の絆作りに役立った。 ・保育参観や個人面談を通じて子どもの姿を伝え合い、親も園も共に育ち合う「共同保育としての子育て」の喜びを分かち合うことができた。 ・野菜販売や夕食を家族で食べもらう日を設けることで、食を営む楽しさを家族同士で味わうことができた。 ・千代田区架け橋プログラムづくりを通じて、千代田小学校との連携を深めることができた。また近隣の保育園との交流も進んだ。

Ⅲ 保育の実施運営・体制全般に係る観点 ・働き方を改善し、より保育が楽しいと思える職場にしてい	・子どもの姿から次の活動につながる保育展開のために、保育書式のICT化が軌道に乗った。 ・ノンコンタクトタイムがとれるようにシフト表に「アルファ番」を設けることで、保育記録の作成や話し合いの時間を少しつくることのできるようになった。 ・振り返りで気づく楽しさを充実させ、保育を語る中で学び合う時間を充実させた。
---	--

4. 保護者からの評価

I 保育の基本的理念と実践に係る観点 ・保育理念・保育方針・保育方法について ・日々の保育の受け止めから	(入園案内・園の選択・日々の会話・個人面談・連絡帳などから) ・子どもは一人ずつ異なることを大切にしている保育を評価している。 ・年齢や性別、病気や障がいなどの「類型」で子どもをみないことを理解してもらっている。 ・主体的な遊びによる学びを大切にしていると理解している ・子どもが自らやろうとするように援助する保育に共感している。 ・自分で決めたり選んだりできる保育を支持している。 ・室内でも戸外でも、様々な遊びに没頭していることを喜んでいる。 ・自分の食べきれる量を知り、満足感をもって食べきり、好き嫌いが減り、なによりも楽しい食事になることに期待している。 ・午睡の一人ひとりに合った過ごし方を好ましいと考えている。 ・異年齢集団のなかで人と関わる力が育っていると受け止めている。 ・発達の異なる子ども同士の生活は他人の理解を促すと考えている。 ・他者との関係のなかで自分のこともよく分かる子どもに育つと思っている。
II 家庭及び地域社会との連携や子育て支援に係る観点 ・行事や子育て支援のイベントなど	(行事ごとのアンケートから) ・子どもの育ちを伝える行事では、普段の子どもの姿がよくわかったとか、どんな保育をしているのか、どのように育ってきているのかなどが理解できたという感想が多かった。 ・親子で楽しむ行事では、親子で長時間過ごすことができ楽しかったとか、他の家族と一緒に楽しむことができ有意義だったという声が多かった。 (睡眠講座について) ・大変参考になった、もっと早く受講しておきたかったという感想がほとんどである。 (夕食会について) ・晩御飯を考えなくて済む日があることがありがたい、保育園の給食がどんなに美味しいかわかった、子どもが普段食べている給食を家族で食べることができて嬉しい、他の家族の方と親しくなる機会にもなり続けてほしい。
Ⅲ 保育の実施運営・体制全般に係る観点	・子どもを自由にのびのびと生活させてもらっておりありがたい。 ・先生の異動が少なく先生が働きやすそうな保育園だと思いい親も安心している。

	・先生がとても優しく子どもが懐いていてありがたい。 ・延長保育や保育時間の変更なども柔軟に対応していただきとても助かっています。 ・保護者会など親に負担にならないように、いろいろなことを配慮してもらっている。
--	--

5. 取組状況の分析と今後の課題

I 保育の基本的理念と実践に係る観点	■発達に課題のある子どもたちの個別の生活援助（午睡の対応や生活の切り替えへの援助、怪我の防止など）に職員の負担が大きかった。 （課題解決への方針）必要な時間に職員を増やし、チーム保育の工夫と充実を図る一方、ゆとりのあるシフトを作る必要がある。また個別支援計画作りとその実践に専門的支援の仕組みを導入したい。
II 家庭及び地域社会との連携や子育て支援に係る観点	■保育の可視化。保育のねらいと保護者の願いがすれ違うとき、子どもの姿の意味を園と保護者で共有することが難しい。 （課題解決への方針）非常勤職員の加配と同時に、園と保護者の信頼関係づくりをすすめつつ、子どもの育ちゆく姿の可視化をすすめ、保護者には保育参加などによる事例理解を深めてもらいながら、保護者との対話を重ねていきたい。
III 保育の実施運営・体制全般に係る観点	■保育計画と記録。子どもの姿ベースの保育がかなり進んだ。計画と実践その振り返りによる次なる展開という保育の流れについて、職員全体の習熟度が上がってきた。コドモンのオリジナルの保育書式をもちいて詳しく記録に残せるようになっている。 （課題解決への方針）この保育記録と、保護者に日々、保育活動を伝える連絡ツールの記録作成とのかねあいについて、AIなどを用いて、さらに作業軽減できないか検討したい。 ■職員のメンタル子ども同士のかかわりで育つ力は、現在の子どもたちにとっては非常に大切な経験になっている。しかし安全面への予防などをめぐり、保護者と保育者の間で、子ども観や保育観の微妙な違いから心的ストレスが生じ、その積み重ねからくるダメージが、労務管理上も大きな課題になっている。 （課題解決への方針）ゆとりあるシフト勤務をめざし、同僚性をたかめ、働き方の改善、いろいろな労務負担を軽減し、職場の心理的安全性を高めていくこと。